

百年修得同船渡

X O P O W O

コモンさん
二〇一四年
伊三未

雨云のうら 21 Freedom is Life



人外

天
外
有
人
天
外
有
天

Kebersamaan

Ris, chante
et bois
On ne vit
qu'une fois!



말은 문화이고 문화는 마음이다.

Hidup Nyaman

北九州市

ベス BESS 展示場へ 行こう!!

丸い家、四角い家、三角屋根の家、シブい家…個性たっぷりの木の家や楽しいインテリア、気持ちいいウッドデッキや庭。BESS展示場には、「こんな風に暮らしたら、楽しそう!」のヒントがいっぱい。今度のお休みは、BESS北九州展示場に出かけてみては?



普通の住宅展示場と全然雰囲気が違うよね
え?好きなように見てまわりたいの?
緑も多くて、公園みたい!
お家にいろいろな顔がある。おもしろ〜!
ようこそBESS北九州展示場へ!
オープンから18年間で、40,000組のお客様にご来店いただきました。
寛いで見学いただけるよう、スタッフの付き添いはありません。お気軽にご来場ください。

自宅として楽しむログハウス 個性あふれる木の家の内部に潜入!

ログハウス=山小屋の別荘と思っている人も多いのでは?実際は、9割の人が自宅として住んでいます。木のぬくもりいっぱいの家、街の中に、今どんどん増えています。

どんな365日になるんだろう?

晴れた日が 楽しみになる空間!

すべての家にキッチンがあるように、すべての家にウッドデッキが! “大空の下のリビング”を、暮らしに欠かせないアイテムと考えている BESS。この空間、どう使うかは住む人次第?

◎あきつログハウスは、ウッドデッキの代わりに、庭の楽しさを提案しています。

読書? BBQ? どう使う? どの家にもウッドデッキが!

薪の炎を見つめていると人間の気持ちは穏やかになるのだとか。BESSの住人の半分以上の人が、薪ストーブを設置するというデータが。

◎ストーブ一台でハイブリッド車5台分!70%削減効果もあるエコな暖房として注目されています。

わが家にも絶対ほしい

理屈抜きに、五感で感じてみて! 吹き抜け・天窓のある空間

同じ㎡でも、広く明るく感じるのなぜだろう? 心がおだやかになるのは、どうしてだろうか? BESSのキーアイテム・吹き抜けや天窓の気持ちよさはカラダで感じられないとわからない!

何だか 気持ちいいなあ…

「カッコいいね」「なんだこれ?」 楽しい暮らしが想像できるインテリア!

そこに住んでいる人の顔が見えてくるような、凝ったインテリアも面白い! 「家を見に来たつもりが、小物や家具に見入ってしまいました」という人もしばしば。

ひとつひとつに すていごだわり!

映画の世界だけじゃなかった! やっぱり羨ましい「薪ストーブ」

ログハウスと言えはやっぱりこれです。薪の炎を見つめていると人間の気持ちは穏やかになるのだとか。BESSの住人の半分以上の人が、薪ストーブを設置するというデータが。

◎ストーブ一台でハイブリッド車5台分!70%削減効果もあるエコな暖房として注目されています。

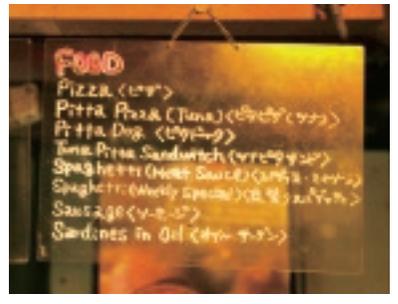
このまんま住めるんだあ。標準プランで実際の暮らしを体験

豪華絢爛なモデルハウスに憧れて家を建て「展示場は良かったけれど……」という気持ちになるのは何となく…。見学できる建物は、等身大の標準プランだから、実際に住んだときの感覚がわかりやすい!

住み心地が 実際わかる!

ラッキーマーンの 幸運。

写真 高野秀行 文 じつるやももこ



オレゴン州の地ビールと、生ビールが人気。「ラッキーマーン」小倉北区鍛冶町 1-2-15 三樹ビル2F 19:00~27:00 日休 ☎ 093-533-5776

小倉北区の繁華街の一角にその店はある。今年で23年目。初代のオーナーは、もともと英語教師として北九州市へやってきたアメリカ人。当時、国籍に関係なく、気軽に入れて安く飲めるバーは少なかったから、自分で作った。「当時は店の突き当たりまで続く長いカウンターがありました。その雰囲気がかっこよく、格好よかった」。話してくれたのは、現オーナーの塩見マスタ。最初は客として飲みに行っていた。店の存在を知ったのは、姉がバイトをしていたから。ひとりで来ている客も多いから、カウンターで肩を寄せ合っている客も、言葉の壁なんてそもそもないことに気づく。塩見さんにも顔見知りが増えていった。そんな矢先、

オーナーが店を閉めることを決めた。「いい店なのに、もったいなあ、と。ならば、自分が引き継ごうと決めました」。ほどなく常連はオーナー兼マスターとして店に立つことになる。箱のみならず、イベントも継続した。年に1回、クリスマスに関係なく七面鳥を焼いてふるまう日がある。クイズナイトと称したイベントは月一の恒例。英語で出題される問題に答えるグループ勝ち抜き戦だ。ハロウィンパーティーでは、仮装に気合いが入りすぎて、常連客の顔の見分けがつかなくなる、と塩見さんは笑う。小倉の小さなバーは、店を愛するひとりの客に救われ、多くの客に支えられながら今夜も明かりを灯す。

目次

1 ラッキーマーンの幸運。

2 特集

3 海を渡ってきた北九州人。

4 武蔵とベリーダンスと談話室。

5 コモン・ティエリ

6 アミール・ナスチャー

7 西原京秋

8 聞き書き わが街の暮らし。

9 金桂満

10 ふたつの故郷。

11 トウ・マイラス

12 強さは優しさ。

13 イアン・マクドナルド・ジャビース

14 微生物と波乗りと。

15 ムハンマド・スプハン/インドリヤニラフマン

16 笑顔があるから。

17 翁麗娟

18 家族の味。

19 「雲のうえ」21号

20 絵 高野伊三夫

21 アートディレクション 山田達也

22 編集 じつるやももこ

23 校正 藤藤音

24 ©北九州市2014

25 本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

BESS北九州展示場は、「暮らしを楽しむ家づくり」のお手伝いをしています。自宅向けログハウスをはじめ、個性的な木の家7棟をご見学頂けます。

ベス BESS 北九州展示場

「住むより楽しむ」

Phone:093-291-1700

〒811-4331 福岡県遠賀郡遠賀町別府3713-3

- 営業時間/AM10:00~PM6:00
- 定休日/水曜・木曜(祝日は営業)
- 交通/車:国道3号線遠賀バイパス(側道沿い) 黒崎I.C.より約20分・古賀I.C.より約40分

株式会社BESS福岡

BESS北九州

検索

BESS北九州案内書はこちら

BESS 安心総合保証

BESSなら建てる前も建った後も安心。建て替え、住み替え、用地確保、住宅ローン等、お気軽にご相談ください。

50年保証システム

建物の完成までを確実に保証する「完成保証」

施工後に地盤と瑕疵を併せて保証する「50年保証システム」(住宅履歴付)

万一の不具合にも、万全な24時間態勢の「メンテナンスサポート態勢」

特集

海を渡ってきた北九州人。

写真 長島有里枝 絵 牧野伊三夫
文 高野秀行 (P 4 ~ 17)、つるやももこ (P 20 ~ 29)



真延流 (剣術研究会)、江下立先生の稽古場
をお借りして、いざ、撮影。長岡直行先生とコ
モンさんが構えに入ると、その気合いに空間がし
んと静まり返り、観客は呼吸を忘れてしまう。

うさぎ追いし彼の山、
小鮒釣りし彼の川。
忘れ難き故郷をうたう歌は、
きつと世界中にあるだろう。
家族を思いやる心、
離れた恋人を慕う気持ち、
いつか帰りたい場所は、
誰のなかにもあるだろう。
いっぽう住めば都というように、
故郷と遠く離れていても
ここに暮らし続けたいと願うひともある。
言葉や習慣、国籍や宗教が違って、
この街に暮らせば今日から北九州人。
国境という名の線は、目には見えないのだから。



武蔵とベリーダンスと談話室。

文 高野秀行

高野秀行（たかの・ひでゆき）
1966年、東京都八王子市生まれ。ノンフィクション作家。早稲田大学探検部在籍時に書いた『幻獣ムベンベを追え』（集英社文庫）をきっかけに文筆活動を始める。「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをやり、それを面白おかしく書く」を信条に、アジア、アフリカなどの辺境地をテーマとしたノンフィクションのほか、東京を舞台にしたエッセイや小説も多数発表。2008年、「ワセダ三畳青春記」で第1回酒飲み書店員大賞を、2013年「謎の独立国家ソマリランド」で第35回講談社ノンフィクション賞受賞。近著に『世にも奇妙なマラソン大会』『イスラム飲酒紀行』など。

フランスからやってきた宮本武蔵

「北九州は小さな町の雰囲気があり、それでいて人がオープン。いいところですよ」。そう語るのはフランス北部の港町ルーアン出身で、『北九州日仏学院』の院長を30年務めるコモンさん。「ここには海も山もあります。ときどき仕事で東京に行くけど、笑っちゃいますよ。満員電車とか、人間の生活じゃない。こっちの方が生活のレベルはずっと高い」

コモンさんは自分の学院や福岡県内のいくつかの大学でフランス語を教え、また翻訳・通訳を手がけるが、もう一つの顔は武道家。合気道は40年、剣道は30数年修行している――。そう聞いていたのだが、実際に演武を見せてもらって驚いた。コモンさんは右に大刀、左に小太刀をかまえている。いわゆる「二刀流」、正確には、宮本武蔵を開祖とする「二天一流」。

私は北九州に小倉があるかどうか知らなかったほどの不届き者のくせに、武術と歴史が好きなので、武蔵が小倉藩に長く滞在していたこと、それから佐々木小次郎と闘ったとされる巖流

島（下関市船島）が当時小倉藩領だったなんてことは知っていたのだ。まさか当地に住むフランス人武道家が二天一流の門弟とは。こんなところで武蔵由来の剣を見られることに大興奮してしまった。

相手役を務める長岡直行先生が上段から打ち下ろす太刀を左の小太刀で受け、裂帛の気合いとともに右の大刀を先生の首筋に打ち込む。お二人の迫力ある攻防もさることながら、私はこの流派の一種の合理性に感嘆していた。なにしろ、相手は刀が1本で、こちらは2本。相手の刀を左で受けて、右の刀で打ち込めば勝つ確率は確実にあがる。と同時に、この合理性に日本離れた性質も感じてしまう。「無の境地でひたすら打ち込め」的な日本人好みの精神論がここにはない。

「二天一流は二刀だけじゃありません。勢法（他流派でいう「型」）には一刀が12、小太刀が7つ、二刀は5つだけです」と、袴に白足袋姿のコモンさんは淀みのない日本語で説明する。要するに、二刀にこだわっているわけではない。「相手の動きに応じて自分も動く」、つまり臨機応変が重要だということだろう。

コモン・ティエリ

フランス出身、在歴33年。1979年、フランス公務員として来日。妻と出会い、日本を気に入り長期在住を決意。2年後に北九州日仏学院院長に就任。同校でフランス語教師を務めるほか、産業医科大学、大分大学などで教鞭をとる。また仏和の翻訳や通訳、フランスと日本の比較教育をテーマに講演会も行っている。写真は、『北九州市立いのちのたび博物館』にて
www.kmnh.jp/

「毎日使っている
「自分上手い時計」の
携帯電話と
靴に入ってるおいた
キャンパンの類、
小倉のお店で飲んできた
お茶をいただきました。」



坂口安吾が書いている通りだと思った。安吾は『青春論』という随筆の中で武蔵について熱く語っている。武蔵はときにわざと遅刻して相手をいらつかせ、ときに試合で挨拶もせず相手に近づき、意表を突かれた相手をいきなり打ち倒してしまう。武蔵は取り澄ました悟りの境地とは無縁で、勝つためにはあらゆる手段を講じた。その必死さが美しいと安吾は讃えているのである。そして若い頃の私も安吾のこの文章を読んで、深く共感したものだ。

「二天一流は現在、世界に広まっていて、フランスやイギリス、フィンランド、カナダ、ルーマニアなどに数百人の門弟がいま

す」とコモンさん。彼ら国際剣士たちは、武蔵がかつて暮らした今でも二天一流の一大拠点となっている小倉に修行に訪れ、ときには紫川の上流にある「菅生の滝」で稽古を行うこともあるそう。たいへん美しい場所でもあるというので、本当はそこに行きたかったのだが天候不順のため断念。代わりにやはりコモンさんがお気に入りとする『北九州市立いのちのたび博物館』に案内してもらい、コモンさんが親しくしている副館長さんの計らいで、講堂で演武を見せてもらうことにもなったのだ。演武のあと、画家の牧野伊三夫さんが袴姿のコモンさんの絵を描く。コモンさんは30分正座で微動だにしない。その佇まいはまさに日本の古武士。だが、この古武士、やはり牧野さんに「色紙に自分の好きな言葉を」と頼まれると、フランス語でさらさら書き、にこにこ顔で説明した。

「笑って歌って飲みなさい。人生は一度きり」
この落差にはひっくり返りそうになった。

そう、日本の侍と人生を謳歌するフランス人の二刀流こそがコモンさんの真骨頂なのだ。

青と黄色のストライプの入ったお洒落なシャツに着替えると、コモンさんは別人。「夏は冷麺がいちばん」というコモンさんと一緒に冷麺を食べたあと、市内のお宅にお邪魔し、小倉の町が一望できるリビングルームで波瀾万丈のライフストーリーを聞いた。

1957年生まれのコモンさんは、17歳のとき、たまたま出会った合気道にのめりこむ。2年後、師範学校に進んだコモンさんはパリ警察の武術顧問でもあった大武道家、アラン・フロケ先生に見込まれ、日本修行旅行に同行することになる。1976年のことだ。

「当時、日本はフランスでは評判が悪かったんです。ものを安く売ってヨーロッパの経済を駄目にしてるってね」。日本とフランスの交流も全然なく、驚くべきは学校の世界地図帳に日本の地図だけが載ってなかったそう。しかし、片道24時間という飛行機の長旅でたどりついた日本では至るところで親切を受け、もう一度日本に行きたいと思った。「だって、いい思い出しかなかったから」

大学卒業後、公立中学校の国語の先生を1年勤めたあと、フランス政府の海外協力プログラムに応募し、福岡市にある九州日仏学館にやってきた。合気道だけでなく剣道も始め、他に茶道、華道、書道……とさまざまな日本文化にチャレンジした後、後に奥さんとなる日本人女性とも知り合った。

任期の2年が過ぎた。「このまま日本に留まりたい」と切望するも、日本にはポストがない。公務員を辞めたら仕事もなく、ビザも出ない。考えたあげく、コモンさんは奇策に打って出た。フランスの公務員は1年の無給休暇を許されているという。この間、その人は旅行しようが商売しようが何をしてもいいとされる。コモンさんはこの無給休暇をとり、北九州市で新しいフランス語学校を設立しようとしたのだ。

「北九州は文化の砂漠だ」って周りの人から止められたけど、他に人口のある大都市がなかったから」という理由で、この地にやってきた。当時は空気が悪く、バイクに乗ると、顔が黒く煤けてしまうほどだったという。

全財産を投じ、1年かけて『北九州日仏学院』を設立、生徒も100人近く集めた。そして、その学校の概要をフランスの外務省に報告し、依頼した。「自分をこの学校の校長として赴任させて下さい」。自分で自分のポストを作ってしまったのだ。



前列右から、江下立先生、コモンさん、長岡直行先生。もともと岩見宗家へ師事し、二天一流剣術を始めたコモンさん。今でも長岡先生に習うほか、江下先生の真延流剣術の練習に励む。

Ris, chante
et bois
On ne vit
qu'une fois!

笑って歌って飲みなさい。人生は一度だけ。

Thierry Cotton



牧野さんが絵を描いている間、約30分、微動だにせず正座を続けたコモンさん。足がしびれた様子もなし。さすが古武士！

「今ではフランスでも絶対考えられません。論外」とコモンさんは手を振って笑う。「でも、当時はそれがうまくいったし、それしか方法がなかったんです」

勝つためにはあらゆる手段を講じる——まるっきり武蔵のようだ。破天荒が結果としては合理性となっている不思議さ。

こうしてフランス国家公務員のまま、北九州人として3人の子供を育て、武道家としては剣道のほか、合気道も結城信夫先生に師事し、まだ修練に努めている。

「町も30年前に比べると全然きれいになった。市が努力しているんですよ」と、かつての「公害都市」を絶賛。

「寿司や刺身、梅干し、天ぷらが大好き」と言う一方、「ワインにフランスパン、それにカマンベールチーズがあれば最高他に何もいらない」とフランス人の血も全然薄まっていない。

日本とフランスという二刀を自在に操り、向上心の塊のようなこの人物が今、目指しているのは、北九州市と故郷のルーアンを姉妹都市にすること。

「両方とも古い港町ですし、共通しているところはたくさんあるんです」

二つの世界をひとつにする。二天一流のコモン武蔵は次にどんな奇策でそれを成功させるのか、とても楽しみである。

ロシア人ベリーダンサーの謎

「ベリーダンス（以下、ベリー）」と聞くと、私は平常心ではいられない。別にセクシーな衣装や踊りに鼻血が出そうだとかいうわけではない。実はうちの妻が10年以上前からベリーを習っており、私はベリーの舞台を20回くらい見ているのだ。家でも彼女が練習しているし、トルコでは妻に頼まれて有名なベ

リー衣装専門店に行き、オリジナルの衣装をオーダーしたこともある。いつの間にか「隠れベリー・ウォッチャー」となった。だから、北九州在住のロシア人ダンサーに会えるとなると、マニア的なきめきを隠せないのである。

「こんにちは、アミールです」。にこやかに挨拶しながら彼女がホテルのロビーに入ってくると、周りの空気が一変したような気がした。金髪、アスリートのようにしっかりした体格、エキゾチックな水玉模様のワンピース、そしてロシア人独特の強い視線……。まるでハリウッド女優が現れたかのような存在感だ。彼女がよく買い物に来るというリバーウォークというショッピングセンターのスターバックスコーヒーで話を聞いた。アミールさんは太平洋岸の町ハバロフスクの出身。東京まで飛行機で2時間半と非常に近いので、多くの人が日本へ気軽に遊びに来るといふ。実際、アミールさんは10年前、北九州に暮らしている友だちを訪ねてこの地にやってきた。

北九州の魅力を訊ねると、「海も山も近くにある」とフランス人のコモンさんと同じことを言った。日本食も大好き。忙しいので、ランチはたいてい外食だが、「スシロー」「くら寿司」など回転寿司がお気に入り。「ロシア人のお友だちもみんな（そういう店が）大好き」とアミールさん。

カレーや味噌汁もふつうに作る。「今日もカレーを作りました。ナス、椎茸、砂ずり（砂肝）を入れたの」。ずいぶん個性的なカレーですわと言ったら、「冷蔵庫にあるものをみんな入れただけよ」と明るい笑い声をあげた。

続いて北九州以上に気になるベリーの話題。

現在、ベリーの本場はエジプトとトルコ、それにアメリカだと言われている。最近ではロシア出身のダンサーが世界的に増えていて、人気だとも聞く。しかし妻もロシア人ダンサーとは



トルコで購入したというエキゾチックなワンピースで登場。ときおり挑発するような笑みを浮かべ、取材陣を翻弄。



アミーラ・ナスチャー

ロシア・ハバロフスク出身、在歴10年。2004年に来日。以来、北九州市でエアロビのインストラクターを務めながら、年に2〜3回ハバロフスクへ帰国し、祖国でベリーダンスを本格的に学ぶ。2006年より、カルチャーセンター等でベリーダンス講師としての活動を開始。2009年より「アミーラ・ベリーダンス・スタジオ」主宰。



X O P O W O

素晴らしい!

Amira

禁断の(?) ベリーダンス教室練習現場。アミールさんは先頭に立ち、声を張り上げながら、体を動かし続ける。

会ったことがなく、なぜロシアでベリーなのかは不明だった。「ロシアではバレエだけでなく、どんなダンスも盛んなんです」というのがアミールさんの答え。彼女自身は小学生の頃から社交ダンスをやっていたという。「日本では社交ダンスっておじさんとおばさんがやるもの、みたいでしょ? でもロシアは違う。子供もやる。私もとても一生懸命やっています」なるほど、ロシアは「ダンス大国」という基盤があるわけだ。では、アミールさんの場合、何がきっかけでベリーを始めたのか。そう訊くと、「インド映画」という思いがけない答えがかえってきた。

「ロシアではテレビでインド映画をやっている、大人気。みんな、涙を流して見えています。私はダンスも好きだった」その後、ベリーを見たとき、インドの踊りに似ていることで強く興味を惹かれたという。

うーん、深い。ベリーの原型はジプシー(現在の呼称は「ロマ」が一般的)のダンスにあるとも言われている。そして、ジプシーの起源はインド北部である。今となってはインドのダンスとベリーは別物だが、アミールさんはダンサーとして本質的な共通点を両者の間に見いだしたのである。

大学でエアロビクスに出会い、インストラクターの資格をとっていたアミールさんは、北九州でもカルチャースクールなどでエアロビを教えるはじめた。それからは、仕事の合間を縫い、ハバロフスク、モスクワ、東京、大阪、名古屋、そしてエジプトで「ワークショップ」(体験学習会のようなもの)に参加し、ベリーの技術や知識を深めていったという。

ベリーの世界は独特で、プロのダンサーでも、別のプロ・ダンサーのワークショップに頻繁に参加し、新しい振り付けを覚える。振り付けにも世界的な流行があり、その流れを知るうえ

でもワークショップは欠かせないとされている。いくら上手なダンサーでも自分の世界に閉じこもってワークショップに参加しないと芸がマンネリ化してしまう。逆に、北九州のような大都市にいても、アミールさんのように元々レベルの高いダンサーなら、世界各地のワークショップに積極的に参加していけば、技術や芸力を高めることができるのだ。

夜、小倉の繁華街にあるアミールさんのベリーダンススタジオにお邪魔した。私はまたしても平常心を失いそうである。ベリーのスタジオはどこも男子禁制だからだ。私ほどのベリー・ウォッチャーといえども、スタジオの練習風景は映像でも見たことがない。

まずはアミールさんが衣装に着替えてポージングの撮影。アミールさんの衣装は緑と黄色を基調とした、ひじょうにオリジナリティあふれるもの。ベリーは衣装がダンスの一部とも呼べるほど大事な要素だけに、「素晴らしいですね。こんなのは見たことがない」と伝えたら、彼女はとても喜んだ。「自分でイメージを考えて、ハバロフスクの有名なデザイナーに作ってもらったの」。ロシアではちよつと前まで衣服は仕立屋で作るのが普通だった。だから、腕のよい仕立屋さんの中でベリーの衣装を手がける人も出てきたらしい。日本人ダンサーは基本的に、エジプトやトルコで買うか、取り寄せるしかないから、それだけでもロシア人にはアドバンテージがあると言える。というか、日本人ダンサーもハバロフスクの仕立屋に頼むといいのではないか。なにしろ中東よりずっと近いのだから。

生徒さんが集まってきたので、今度は練習を見せていただく。アミールさんは練習着に着替え、逆に生徒さんたちはちゃんと衣装を身につけてくれた。



にしはらきょうしゅう
西原京秋

中国・武漢市出身、在歴19年。祖国で北九州市在住の夫と出会い、19年前に国際結婚をして来日。結婚後、北九州国際交流協会で、「外国語談話室」ボランティアとして中国語や文化を伝える活動を行う。現在は教育委員会から依頼を受け、市内の小中学校にて、来日したで日本語を勉強中の児童に、日本語習得支援を行っている。

いよいよ夢の練習風景である。音楽をかけると、アミール先生が先頭に立ち、それを生徒が真似をする。動き自体は、基礎練習なので、別に珍しくはない。「1、2、3、4……」というアミールさんのかけ声にしたがい、腰、肩、胸、足、手を順番に、ときに同時に動かしていく。だが、驚いたのはそれが延々と続くこと。ノンストップで40分も動き続けるのはまさにエアロビ式である。もちろん、体の動かし方をすでに指導済みだからこそできるのだろうが、これはきつそうだ。

やっと基礎練習が終わったあと、今度は生徒さん全員で1曲踊ってくれるという。アラブ風のオーソドックスな曲に乗って、生徒さんが踊り出す。アミールさんは「エジプトスタイル（エジプシャン）が好き。ドラマチックで深い」と言っていた。東京もエジプシャンが主流なので、振り付け自体は馴染みのあるものであるが……。

「お、うまいじゃん！」。びっくりしてしまった。まだ初級レベルの人から上級者まで20人ばかりいたが、うち4、5人はいきょう上手だ。体の軸がぶれない。手足の動きが柔らかい。音楽にも乗っている。

アミールさんはこう言っていた。「ロシアのダンス・レッスンは厳しい。生徒を目的地に連れて行くことがコーチの仕事だから。でも日本では、特に女性は厳しく言うと、緊張してしまふ。緊張したらベリダンズは駄目。だから楽しく、気持ちがおオープンになるようにしています」

スタジオを始めてまだ5年。つまりいちばん古い人でもキャリア5年。それでこの技術は大したものだ。アミールさんの教え方がとてもいいと思えない。

あとでアミールさんにそう伝えると、「ほんと？ 東京にも負けてない？」と言って、心底嬉しそうに笑った。衣装が褒め

られたときよりも、ポージングが美しいと言われたときよりも嬉しそうに。やっぱり、生徒さんを心から愛しているんだなと感じ入ったのである。

北九州市に足りないものは「談話室」だけ？

西原京秋（本名…湯京秋）さんはいきょう美人で、物腰もたおやかな人である。日本語もほぼ完璧なので、一見すると日本人にしか見えない。その一方、控えめでありつつ、感情表現は率直で、曖昧さが皆無なのはいかにも中国人。つまり日本人と中国人のいいとこ取りが西原さんという人だ。

日本との縁は22歳のとき、テレビで和服姿の女性が日本語を話している姿を見たのがきっかけだった。

「和服もすてきだったし、言葉がよかった。『ね』とか『よ』とか……女性の美しさを全部表していると思いました」

感激した彼女は、すぐさま地元湖北省・武漢大学日本語学部で聴講生として入り、2年間みっちり勉強した。その後、地元の日本との合弁会社で仕事をしているうちに新日鐵に勤める今の旦那さんと知り合って結婚。北九州にやってきた。

あこがれの日本も、最初は友だちもおらず寂しくて仕方なかった。だが、ある日、ゴミを出しに行ったらときのこと。

「知らないおばあさんが『おはようございます』と挨拶してくれました。中国では知らない人には挨拶しませんから、私はすごく嬉しくなりました。ケンケンして家に帰りました」

「ケンケン」は「スキップ」の間違いじゃないかと思うのだが、ともあれ、この件以降、彼女は「自分から挨拶してみんなと仲良くなろう」と決意。どんどん友だちも増え、北九州が大好きになっていったという。

百年修得同船渡

今生の出会いが前世修行によって得たものだから、この縁を大切にしましょう。

西原 京秋



「今、ラダンスに熱中しています」との言葉、立ち姿も決まっている。この笑顔は北九州市の老若男女は癒やされて、あの笑顔だ。

食べ物はどうだったのだろうか。最初からおいしかったものもあれば、後から慣れたものもある。前者の代表がとんこつラーメン。「武漢にもありますから」と意外なことを言う。

実は武漢は排骨麵（パイグーミエン）という麵が有名。西原さんのお父さんは自分で豚の骨を買ってきて、包丁の背で髓を割り、スープをとっていたという。ただ違うのは武漢では大量の唐辛子を麵に入れること。

「武漢は夏、すごく蒸し暑い。蒸し器にいます。そして辛いものを食べると体から湿気がとれると言われています」

どんぶり1杯の麵にスプーン3杯分の唐辛子を入れていたというから驚きだ。もっとも来日直後の西原さんもうどん屋の七味を見て驚いた。「小指の先ほどでもない匙を使ってるんですから」。それでも頑張って七味を入れたらしい。「一緒に行った主人に『唐辛子代も払ってね』と笑われました」

今は七味匙2杯分と平均的な日本人並みになっているという。一方、味噌汁はなかなか好きになれなかったが、つい5年前、中国の実家に帰っているとき、突然食べたくなったという。

「あ、私は本当に日本人になったんだなって思いました」

人は親切だし、食べ物もみんな好きだし、小倉城や白野江植物公園など、美しい場所はたくさんある――。

北九州を片っ端から褒めちぎる西原さん。中でも彼女が強調したのは「外国人に手厚いフォローがある」ということ。例えば、若いお母さんのために離乳食教室を市で主催しているが、外国人が前もって頼めば通訳を用意してくれるという。

また、北九州市では、来日したばかりで日本語を理解できない小中学校の生徒への日本語習得支援を行っている。西原さん

も5年前より、教育委員会の囑託としてこの支援に携わっている。私たちもこの日の午前中、小学校で見学させてもらったが、国語の時間に、西原さんはマンツーマンで、昨年末に来日したばかりの子供に日本語を丁寧に教えていた。現在は4人の中国出身の子供を相手に、全部で週15時間も教えている。

「言葉だけでなく、心のケアが大事」と西原さんは言う。親しい友だちもいない、生活環境も全く変わってしまった、さらには親との関係がうまくいかないときもある。子供の置かれた状況を考え、話を聞いてあげ、場合によっては親と話をすることも大事だという。

「北九州の校長先生はみなさん、とても子供たちをよく見ていて、素晴らしい方ばかり。私もこんな仕事をさせてもらって感謝です。何か恩返しをしたい」と西原さん。いや、もうとっくに北九州に尽くしていると思うんですが……。

それに何か北九州の問題点も言っただけ。いいことばかりだと、なんだか嘘くさい広報誌みたいになってしまう。

そう言うと、西原さんはこの日初めて難しそうな顔になり、しばし考えたあと、言った。

「談話室がなくなったことかな」

去年まで5年間、小倉北区にあるアジア太平洋インポートマート（AIM）内の、国際交流協会小倉インフォメーションセンターを活用して行われた「外国語談話室」にボランティアとして参加。毎週土曜日の午前中に、無料で中国語会話を行っていた。しかしインフォメーションセンターの廃止にもない、談話室も終了となった。

「すごく楽しかったんです。あれだけが残念」

ぜひ談話室を復活させてほしい。そうすれば、西原さん的には北九州市は「完璧」な町になるのだから。

日本最大級!餃子の祭典!!



全国各地の
激ウマ餃子が
北九州市八幡に集結!!

九州初上陸!!

2014 入場無料 飲食は有料
全国餃子サミット 開催記念

全国餃子祭りの北九州

~八幡ギョウザワールド~

2014 OCTOBER 10/ **4・5** 日

時間 / AM10:00~PM3:00
会場 / 北九州イノベーションギャラリー 芝生広場周辺
(JRスペースワールド駅から徒歩約5分)

同時開催
八幡中央町の商店街で
わいわい祭り
開催!

会場へお越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。

「餃子!ぎょうざ!ギョーザ!餃子だらけの2日間!!」

餃子ブースだけで30以上! 史上最大規模の“餃子の祭典”が北九州で開催! 有名餃子から変わり種餃子まで、全国の餃子たちが“あなた”を待ってまーす!



安心と信頼の技術
インプラントはデンタルチームジャパン

好評! ドクターによる丁寧な無料相談・無料資料請求
症例数: 月平均140本を超える実績
インプラント1本 税抜 135,000円~250,000円
TEL.092-483-4618
0120-24-1818



DENTAL TEAM JAPAN デンタル チーム ジャパン
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目30-15ライオンズマンション博多2F 診療時間/平日10:00~20:00 土10:00~18:00(日・祝休) 昼休み13:00~14:30 *インプラント治療に保険は適用されません。

業務用エアコン

地域最安値宣言!

当社の見積が他社より高ければご相談ください! 住宅用太陽光も売っています!

おかげさまで
7,000台
以上の
販売実績!

九州電気設備工事株式会社

福岡市八幡西区上の原2丁目2-54
TEL: 093-613-2354 FAX: 093-613-2354
0120-03-1456

聞き書きわが街の暮らし。
文二つるやもこ

ふたつの故郷。

金桂満

金桂満さんには、3つのライフワークがある。ひとつは「アンニョン・ハングル研究会」というハングル語を教える講師の勉強会。ふたつ目は、ハングルでスピーチをする「北九州ハングル弁論大会」で今年13回目を数える。3つ目は英検ならぬ「ハングル能力検定試験」である。これらすべての会の企画・立ち上げから、運営にも携わってきた。一族のルーツである朝鮮半島と日本が理解し合うために行動する。それが、金さんが決めた自分のミッションだ。

妻とふたりの娘がいる。長女はソウル大学を卒業し、ソウルで日本語を教えている。臨床心理学を学んだ次女は、アメリカのミシガン州に暮らし、最近、自閉症の子どもたちをサポートするホームケアセラピーの会社を興した。知的で静かな物腰の金さんは、娘たちの話をするとき、ますます柔らかい表情になった。

金さんは在日二世、6人兄弟の三男だ。生ま

れは北九州市の南東にある福岡県築上郡で、2歳で小倉へ移り住んだ。父は1930年代に日本で勉強するためにこの地へやってきたが、その願いはかなわず、生きるために商売を始めた。ときに、国外から渡ってきた人々に厳しく心ない目が向けられた時代。でも父は、本名で暮らすことを選び、家族にもそれを望んだ。

「その選択によって、人一倍苦労をした人だと思います」と金さんは言う。金さん自身もまた葛藤を抱えながら生きることになったという。当時、祖国にまだ行ったことがなかった。生まれ育った北九州は故郷同然だったが、自分は日本人ではない。「我々は、日本にいたら外国人本国に行けば日本人と言われてしまう」。小学校には民族学級という授業があつて、出席したくなくて逃げたこともある。日本語の歴史の教科書には、読みたくないページがあつた。そして11歳のときに、祖国は2つに分断された。

「思春期から22歳までの間は、とにかく悩みまくった時代でした」

今でこそ人に話せる。でも当時は必死だった。「自分は何者なのか?」。宙ぶらりんのアイデンティティにどうにか根っこを生やしたいと、図書館へ通い、ソクラテスやプラトンなど哲学書を読みあさったこともある。転機は17歳のとき。15歳から患った肺の病が転移して腎臓結核も発症し、危うく命を落としそうになったが、なんとか克服した。そのとき、とにかく自分に流れる血の歴史を、一から勉強してみよう

と、金さんは折尾の九州朝鮮中高級学校に復学を希望し2年生に編入、猛勉強の末に大学にも合格した。「祖国の戦争のことも、強制連行の歴史も調べ尽くしました。それらを知った上で、自分という存在を俯瞰してみたいです。わんわん泣きました」。そう言って今、静かに微笑む。親の苦労が初めて身に染みた。そして金さんは、自分のなかに引かれていた「国境」を消した。日本という故郷で、祖国である朝鮮半島の歴史に尽くしていこうと決めたのだ。

自分と同じように苦しむ若者に、自国の歴史を教え道しるべを示そうと、「朝鮮人青年教育のための研修所」の教員や、朝鮮と日本を繋げる目的で、冒険にあるような活動を行ってきた。朝鮮祭りと呼ばれて、食べ物や踊りなど、あらゆる文化を披露する催しを取り仕切ったこともある。座右の銘「言葉は文化で、文化は心である」は、40年近い活動のなかで得たもの。民族間の心の交感には、やっぱり会話が必要。それには言葉を理解し合うことがなにより大切だと思ふ。金さんは毎日、韓国と日本、両方のラジオ放送を聴く。国を超えた第三者として、情報を客観的に吸収して、社会を主体的に理解したいと考えている。

別れ際、休暇で実家に戻っていたアメリカに住む次女を、これから車で空港まで送っていくのだと金さんが教えてくれた。根っこさえしっかりと持っていれば、地球の何処もきつと、故郷になり得るのだ。

말은 문화이고 문화는 마음이다.

言葉は文化で、文化は心である。

김계만



金桂満さん

二〇一四年

伊三夫

強さは優しさ。

トウ・マイラス



平安な。

たった2本の弦で何十種類もの音を表現するモリン・ホール。各地を演奏して回るマイラスさんは、モンゴルの伝統歌唱法、喉歌とも呼ばれるホーミーも歌い続けている。



モリン・ホール。「馬の楽器」(中国名では馬頭琴)という意味を持つ、モンゴルの伝統楽器を携えて、マイラスさんが北九州市にやってきたのは2008年、20歳のときだ。故郷は、赤峰市(中華人民共和国・内モンゴル自治区)。その名はモンゴル語のウランハダ(赤い山)に由来し、彼の心にはいつも、美しい山並み、麓に広がる草原と雄大な川の流れがある。

始めて6年。ホームページの写真は、小倉南区にある平尾台(カルスト台地)をモンゴルの平原に見立て、民族衣装を着て撮った。

モリン・ホールを最初に教えてくれたのは父。母は歌、兄はモンゴルダンスがとても上手だ。正月、結婚式、祭りなど、祝いの席には家族みんなで披露し合う。「食べて飲んで、とにかくにぎやかで楽しいです」。いつか、家族を日本での演奏に招待したい。応援してくれる日本の友だちも紹介したい。

小学校へ招かれて演奏に行くと、みんなが『スーホの白い馬』の物語を知ってくれている。モリン・ホールで馬が駆ける音をまねると、子どもたちが喜んでくれて、なおうれしい。物語の中にも登場する、馬に乗って速さを競う「ナダム」は、相撲と弓矢に次ぐ伝統的なモンゴル男子のたしなみで、日本へ来る前は、自分も故郷に愛馬を持っていた。声が弾む。「日本人は伝統のものを大切にしている。そして優しいです。モンゴルも一緒。モンゴルの男は強くて優しくなくて」と、マイラスさん。

作って21時〜0時まで再び研究室で研究とのこと。デートもできないですね、という問いに「彼女と住んです。ご飯は家で一緒に作って食べて、夕方と一緒に研究室に来ます」と。

微生物と波乗りと。

イアン・マクドナルド・ジャービス

大学院修了は来年10月。卒業後を尋ねると、ボランティア時代の友人がいるパナマに戻って、しばらくゆっくり遊びたいとのこと。やはり「自由こそ人生」なのかと思いきや、「活動に携わった環境プロジェクトも調査したい」。頼もしいイアン青年なのであった。

20歳でアメリカ・ボストンの大学に留学。卒業後にパナマやペネンラでボランティア活動に携わり、故郷での生活を経て来北。南国育ちの寒がりゆえに、冬は熱燗をたしなむ38歳。

すらりと伸びた手足、厚い胸板。人懐っこい笑顔に白い歯がまぶしい好青年である。故郷はカリブ海に浮かぶ島、バルバドス。種子島とほぼ同じ面積の熱帯の国からやってきたイアンさんは今、北九州市立大学大学院の博士課程で微生物による水質浄化システムの開発研究をしている。川がなく、地下水を汲み上げて飲み水にしているバルバドスの生活環境を守っていくために、ここで学んだ技術を故郷で役立てたい。

北九州市に暮らして4年足らずだが、日本語はとても流暢だ。「人と話すのが好きだから友だちと話して覚えました」とはいえ最初は戸惑いも多く、苦労したのは似ている言葉の聞き分け。「座ってくださいと言われて、なんで触ってほしいの? とか、研究室の安井先生の名前を聞いたとき、(値段が)安い先生ってどういうこと? と、思いました」。困った顔もまた、チャームポイントである。

日本に来る前は、代々受け継ぐ土地で農業をしていた。平均気温30℃、雨量にも恵まれているから、キャベツ、トマト、シシトウ、ピーマン……みなよく育つ。仕事の合間はビーチでサーフィン。いい波が立つ日は、一日中サーフィン。生きるために働くが、お金のためだけに働かない。自由こそ人生とは、イアン哲学だ。

キャンパスから徒歩圏内に響灘が広がる。今日の波はどんな具合かと、時々スマホで確認する。ちなみに、大学生活の一日のスケジュールは、6時起床↓7時登校↓18時帰宅↓ご飯を

Freedom is Life

自由こそ人生。

Ian



自由こそ人生。イアンさん。2009年 伊三木

笑顔があるから。 ムハンマド・スブハン インドリヤニ・ラフマン

「パピー？」

妻のインドリヤニさんが夫へ声をかける。すると、ムハンマドさんが「はい？」とすぐに顔をのぞかせた。ここは戸畑区とよはたの住宅街、土曜日のお昼どきである。インドネシア出身の一家の台所におじやましている。今日のお昼ご飯は、ジャワカレーとナシゴレン。インドリヤニさんの得意料理と聞いてリクエストした。

現れたパピーにインドリヤニさんが、「◎△×◎△×……」と、インドネシア語で何かを伝えると、ミスター・パピーはどこかに消えた。15分ほど経って、ムハンマドさんがスーパールの袋を提げて帰ってきた。撮影用のナシゴレンの目玉焼きが崩れてしまったので、わざわざ新しい卵を買いに行ってくれたようだ。さらにこの後、今がイスラム教徒のラマダン月の真っ最中であることを知らされ、断食中なのに料理を作らせてしまった事実にも、一同、恐縮。しかし、インドリヤニさんは「私たちのことは気にしなくていいよ」と、のんびりと笑った。中学おだやかな夫妻には、娘がふたりいる。中学



3年生のカオリさんと小学校6年生のハルミさん。カカ、ハーちゃんと呼ばれている。そんな一家が北九州市で暮らし始めて8年が経った。ムハンマドさんとインドリヤニさんは、娘たちに日本語の名前をつけるほど、この国が好きだ。若い頃からなぜか日本の文化が気になって、当時、故郷のバンドゥンにあった『日本文化センター』に通い詰めて、書道や生け花まで身につけてしまったインドリヤニさん。いっぽう、ムハンマドさんは、もの心ついた頃からラジオやテレビなどの電気製品や、ホンダやカワサキのバイクに夢中で、高校卒業後すぐに電気工学を学びに日本へやってきた。

そんなふたりの出会いを聞けば、1996年の夏にさかのぼる。当時すでに、ムハンマドさんは栃木県足利市、インドリヤニさんは静岡市へ留学しており、その日ふたりは夏休みを祖国・インドネシアで過ごすために、成田空港から飛

行機に乗った。

「となりの席にパパがいたのね。8時間くらい一緒だった？」とインドリヤニさん。するとムハンマドさんが、「にぎやかなひと、一緒にいると楽しいなあと思いました」と言っていてやる。それを聞いたインドリヤニさんは笑顔で、「ぼくは優しいよー、金持ちになるよー、結婚しませんかー？」と、言われた」とまんざらでもない。「(プロポーズは)その日じゃないよ！」と、慌ててムハンマドさんが首を振るが、日本での遠距離恋愛を経て6ヵ月後にはめでたくゴールインしたというから、まさにスピード成田婚だ。先に留学期間を終えたインドリヤニさんが、そのまま静岡からムハンマドさんの住む足利市へ引っ越し、新婚生活が始まったという。その後一度故郷に戻った夫妻は、いつか再び日本で暮らしたいという想いを娘の名前に託した。新たな生活の場に北九州市を選んだ理由は、ムハンマドさんが研修でたまたま訪れたときに、大好きになってしまった土地だから。緑が多く、交通機関も充実していて、なにより、食べ物がおいしい。人も親切だ。インドリヤニさんも言う。「親子で参加できる、子どものための学びの場もたくさんあります。折り紙や工作教室、博物館主催のイベントが無料だったりするのに驚きました」。子どもを持つ女性としてはもちろん、学園都市・バンドゥンのインドネシア教育大学で、自らも教育カリキュラムを学んだ経験から、北九州市の教育環境に関心を持った。



手前から、次女・ハルミさん、長女・カオリさん、インドリヤニさん、ムハンマドさん。カオリさんは花香る5月生まれ。いっぽうインドネシア語で「香り」は「ハルン」という。ハルミさんの名前はこの言葉に由来する。姉妹はインドネシアと日本、両方の香りをまとって成長していくのだろう。

2年前、大学院の研究の一環で、ボルネオ島のバリクパパンでの環境学習プログラムに参加した。その教材にするために、大学院の先生にアドバイスをもらいながら、インドリヤニさんは「みどりのノート」を参考に、「インドネシア版を編集した。『Catatan Lingkunganku』」「わたしの環境ノート」と題されたそれは、今も現地の小学校の教材として使われている。次回は、故郷のジャワ



今、北九州市立大学大学院で、環境教育を研究しているのも、娘たちが小学校から宿題として持ち帰ってきた「みどりのノート」と呼ばれる、書き込み型の教科書に興味を持ったからだ。パズルやクイズを解いたり、フィールドワークを通して、北九州市の自然と、環境やエネルギー問題への取り組みが自然に学べる作りになっている。「インドネシアの環境はよくありません。子どもたちは、川が汚いのはあたりまえだと思っている。川にゴミを捨ててはいけないと言っただけではなく、なぜ捨てたらいけないのかを教えてあげなくては。市民の意識変化のために教育が必要」と、インドリヤニさんは少し早口になった。

島・バンドウン市の取り組みに、地元マラン大学との共同研究で参加する予定だ。小さなエコタウンを作るべく、ゴミの分別とコンポスト普及を進める教育活動をする。近く、視察のためにインドネシアへ帰る。「その間は、パビーがカカとハーちゃんの前倒をみるの」と、インドリヤニさん。するとパビーが「そう、弁当もわたし作るよ」と、仏様のようなお顔で笑って答える。普段、ムハンマドさんは門司区の機械部品メーカーに勤めている。妻がいない間、食事・洗濯・掃除と、家事万端整え、さらに生活費を稼ぐ。プロポーズの言葉は勢いだけではなかったことを証明するかのよう。

Hidup Nyaman

平穏で快適な生活。

Subkhan

「女の子がきれい」
ひかえめに妻を褒める夫に、ただ、感服した。家族写真を撮らせてほしいとお願いをし、近くの公園へ一緒に出かける。こんもりと茂った木の下で、4人は自然と縦に並んで、前のひとの肩に両手を添えた。前から、ハーちゃん、カカ、ママ。パパは後ろからみんなを支える。並んでみると、背の高さも、まんないおでことほったも、なにより自然とこぼれる笑顔が本当によく似ている。

Kebersamaan

Indri

いい将来のためにみんなで力を合わせる。



インドリヤニさんのナシゴレンは、細かく刻んだレッドオニオンが味の決め手。右上は定番デザート「es buih」。esは氷のこと。パパイア、パイナップル、茹でたサツマイモが黒砂糖水の中に浮かんでいる。現地ではブンクワンというマンゴーに似た果実も入るそう。

家族の味。

翁麗娟

「いらつしやいませー」。澆刺とした声と美しい笑顔で迎えてくれる翁麗娟さん。小倉北区、旦過市場通りと一本筋を隔てた路地にある『台湾料理 大好や 新旦過店』をきりもりする。台北出身、北九州市に暮らして40年。昨年12月に帰化し、あらためて北九州市が故郷になった。

ところで、かつて小倉北区には、中華料理の銘店と言われた『平和会館』があった。その店こそ、麗娟さんの祖父の兄が始めた店で、やがて、長男である麗娟さんの父・有奎さんも妻の楊秀玉さんと共に家業を手伝うために海を渡ってきたのだった。生活が落ち着いた頃、麗娟さんたち兄弟4人も日本へ呼び寄せられる。11歳のときのことだった。麗娟さんは日本語もままならないまま小倉小学校へ編入したが、異国の暮らしへの不安よりも、両親と暮らせる喜びの方が大きかった。1年目の冬に、生まれて初めて雪を見た。

母が、父の働く店のすぐ近くに小さな店を持ったのは、家族と一緒に暮らし始めて少し経った頃だ。母の作る台湾家庭料理と父が作る本格的な中華料理。「2つの味が合わさった店が『大好や』なんです」と、麗娟さん。共働き

の両親と話す時間は短く、ときに反抗することもあったけれど、学校を卒業して気づけば、母の店を手伝うようになっていた。

母は、店でいきいきと働いていた。おおらかでおしゃべり。その日のおすすりめ料理を食べさせたいがゆえに、注文がなくとも勝手に作ってふるまう強引なところもあった。常連さんに慕われる名物女将の横に立った麗娟さんは、最初上手に笑えなかった。

「忙しく動くのは好き。でも、接客は苦手。母のようにできない自分もどかしかった。ある日、常連さんに（怒ってるの？ 顔、怖いよ）と言われちゃって……」。麗娟さんは声のトーンを上げることから始めた。思えば母も、10人兄妹の長男の家に嫁いだばかりの頃、料理がまったくできなかった。野菜の名前さえも知らなくて、姑に（から鍛えられたと聞いていた。

家族の味は、祖母、父、母の3人から自然と教わった。干し大根やちりめんじゃこを入れたお粥は、祖母直伝。体調が弱っているときに胃にとっても優しいので、今でも自宅で作る。自分以外の兄弟が家を出た後、父母と3人で暮らし続けていたときは、食卓に三者三様のおかずがずらりと並んだ。「めいめいが食べたいものを作るんです。父がわたしの料理を味見して（まだまだだな）と言ひ、母が父の料理を褒めたり、批評したり。食べることに関してはうるさい家族でした」。そう、食い意地が張っている、と笑う。「でも、もつとちゃんと習っておけばよかった

な」。4年前に亡くなった父のことをときどき思う。「父は、おいしいと言ってもらうのが生き甲斐でした」。料理人を引退してからも、毎年正月の料理の下ごしらえを2週間前から始め、三日三晩の宴会に備えるようなひとだった。すると、「初孫の小学校の運動会ときには、何が起きたと思います？」と、麗娟さん。

おじいちゃんは孫のために、立派なフカヒレの姿煮、まるごとの茹でタラバガニ、干しナマコやツバメの巣料理など、大皿にのせたそれらを自転車に積んで、家と学校を何往復もして運び込んだという。校庭に並ぶ豪華料理。弁当の域を超越した様子に、麗娟さんは哑然とした。

「あきれちゃうでしょ。おいしい」のために苦労は惜しまないんです。父が亡くなって初めて、どれだけ幸せな家に育ったかが分かりました」

店の味は、家族の味。『大好や』では、ビーフンは父、ちまきは母というように、得意な方の直伝を店のレシピとして採用している。そうはいっても、なかなか本人の味と同じにはならないと麗娟さん。母のちまきにはかなわない。

幼い頃から将来何になりたいか、考えたことがなかった。ただ、体を動かす仕事でしたかった。店の忙しさは性に合っている。休日も、水泳や、愛車のハーレー883で仲間とツーリングを楽しむ。帰化は、慣れ親しんだこの土地にずっと暮らせるようにとの母の決断。娘はそれを受け入れて、台湾との繋がりを心に据えながら、母を大事にしていきたいと思っている。



人外有人
天外有天

翁麗娟



天子を祀る修験の山
英彦山神宮

各種祈願承ります

福岡県田川郡添田町英彦山1番地
電話 0947-85-0001
<http://hikosanjingu.or.jp>



**小倉は
おいしい!**

KOCM
kokura open cafe month

**Kokura Open
Cafe Month**
2014.10.1 ▶ 10.31

週末は外でお茶しよ♪
特設 Open Cafe & Sweets

※都合により日時、場所等が変更になる場合がございますのでご了承ください。

Week 1 10/5 日 13:00~17:00 和カフェ × We Love 小倉カフェ 井筒屋クロスロード	Week 2 10/11 土 11:00~17:00 ミュージックカフェ × こくらマルシェ & 竹あかりナイト × 夜カフェ 勝山橋太陽光ルーフ下	Week 3 10/18 土 11:00~17:00 10/19 日 11:00~18:30 ハロウィンカフェ 井筒屋クロスロード
---	--	---

カフェマンス最初の特設オープンカフェでは「きもので大集合」とのコラボレーション。
和をテイストとしたカフェが楽しめます。更に着物でご来店いただくとあり!

毎年恒例のミュージックカフェを今年も開催。今年なんと、3組以上のミュージシャンの演奏を2ステージ開催(予定)
また12日は特設オープンカフェ初の夜カフェが登場。「竹あかりナイト2014」とコラボレーションし、竹灯笼とカフェでロマンチックな街を演出!

こくらハロウィンとのコラボレーション。ハロウィンオリジナルメニューや装飾で、小倉の街とハロウィンで盛りあげます。また仮装のアピールポイントでもある為、かわいい仮装や楽しい衣装で街が賑わいます!!
お子様には仮装したスタッフから菓子のプレゼントがあるかも!?

裏メニューグランプリ
ふだんのメニューに載ってない裏メニューやまかないを10月限定で10店舗が公開。
カフェブックを片手にカフェめぐりをし、お気に入りの投票してグランプリを決めよう!

《主催》紫川にぎわいづくり実行委員会(北九州まちづくり応援団内)
《構成団体》紫川マイタウンの会、小倉井筒屋、リバーウォーク北九州、ホテルクラウンパレス小倉、小倉中央商業連合会、西日本工業大学、北九州商工会議所、北九州まちづくり応援団、北九州市
《協力》小倉井筒屋・リバーウォーク北九州
《公式HP》<http://murasakigawa.net/autumn/>
《お問い合わせ》紫川にぎわいづくり実行委員会 TEL 093-541-0191 (北九州まちづくり応援団内)

設定期間 9.1(月)出発~12.18(木)出発まで
新門司発 10/24(金)・25(土)
神戸・泉大津発 10/26(日)・27(月)

阪九フェリーで行く!

GOGO
マイカープラン

関西への旅 片道航送代(3~6m未満) + お食事券 2,000円

新造船「いずみ」進水式記念
クオカード 500円 プレゼント!!

プラン参加のグループ様の中に、1名様でも60歳以上の方がいたら

1等プラン 神戸便限定 1部屋(2~4名同額料金) **30,000円**

泉大津プラン 2等指定B利用 1部屋(2~4名同額料金) **29,000円**

シルバープラン 神戸便限定 1部屋(2~4名同額料金) **27,000円**

旅行代金に含まれるもの
■片道乗用車航送代(3m~6m未満)・旅客人数乗船代
■お食事券2,000円 ■消費税等諸税・旅行保険代
※旅行特別補償保険については乗船港から下船港までとなります。

【新門司発】~[神戸六甲アイランド着] 月~木曜日 18:40~07:10 金~日曜日 20:00~08:30
【神戸六甲アイランド発】~[新門司着] 月~木曜日 18:30~07:00 金~日曜日 20:00~08:30
【新門司発】~[泉大津着] 毎日 17:30~06:00
【泉大津発】~[新門司着] 毎日 17:30~06:00

お申し込み・お問い合わせは **株式会社 ヴァーナストラベル** (阪九フェリーグループ)
TEL.093-284-6600
北九州営業所 〒800-0113 北九州市門司区新門司北1-1 阪九フェリー内

フルオーダーデザイナーズマンション **アースコート デイアテラス三ヶ森**

買い物も、学校も、交通も。生活全てが快適な毎日へ。

三ヶ森駅 徒歩 7分
サンリブ三ヶ森店 徒歩 2分
中尾小学校 徒歩 4分
下上津役幼稚園 徒歩 6分
沖田中学校 徒歩 3分

ココがポイント!! 利便性溢れる好立地!!

三ヶ森駅徒歩7分
の快速アクセス

中尾小学校 徒歩4分
沖田中学校 徒歩3分
の文教区

サンリブ三ヶ森店
徒歩2分の高い利便性

平置駐車場
2台駐車も可能
の軽快なカーライフ

自由設計なら叶う、自分だけの住空間 | **モデルルーム公開中!**

フルオーダーについての詳しい内容は右記ホームページをご覧ください。→ <http://www.earth-co.co.jp/>

事業主 株式会社 **アース コーポレーション**
〒802-0005 北九州市小倉北区堺町1丁目9番10号
アースコート堺町BLDG.(旧住友生命ビル)6F TEL.093-551-5130

福岡県知事(4)第13769号

お問い合わせは アースコート デイアテラス三ヶ森販売センター
Tel.093-611-6665

ポイントレース どなたが?



*アンケート

『雲のうえ』21号をお読みいただきありがとうございます。ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望を、綴り込みはがきでお寄せください。抽選で25名の方に以下のプレゼントをお贈りいたします。2015年2月28日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。*応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

A：北九州—東京羽田間往復航空券目録
(株式会社スターフライヤー) ⇒2名様

B：ホテルペア宿泊券(北九州八幡ロイヤルホテル・ステーションホテル小倉・千草ホテル・ホテルクラウンパレス北九州・ホテルクラウンパレス小倉・門司港ホテル・リーガロイヤルホテル小倉)
⇒各1名様
*ご希望のホテル名をお書きください。



©FACE WORLD, INC.

C：スペースワールド
ペアフリーパス券
(株式会社スペースワールド)
⇒1名様



D：北九州市ふるさとかるた
(北九州市にぎわいづくり懇話会)
⇒5名様

E：北九州市工場夜景ミニライトキーホルダー
(北九州市)
⇒10名様



青雲／白雲
*特集「集まれば、仲間!」、北九州のパワーが感じられる良い話だったと思います。長崎から福岡へ越してきました。門司港には一度行ってみたいと思います。北九州の区をそれぞれ紹介してほしいです。
(福岡市・61歳男性)
*「食は故郷を救う、か?」が面白かった。10代が活躍しているとうれしいです。(小倉南区・38歳女性)
*表紙の鞘ヶ谷ラグビースクールの子どもは、まなざしに、ペーじをめくりました。堅パンが大好きでふるさと納税を初めて申し込み、八幡製菓所とつながりがあることに縁を感じました。
(熊本市・57歳男性)
*いつも楽しみに拝読しています。今号は「アズ」の肉筆誌がともいふパクトがありました。「この人も北九州出身のか!」という漫画家さんが予想以上にたくさんいて驚きました。(東京都杉並区・29歳女性)
*北九州市民憲章が好きです。「元気で働き……」と「人を大切に……」は、冷蔵庫に貼っています。
(神奈川県横浜須賀町・36歳女性)
*「雲のうえ」がきっかけとなり、北九州市の島やラーメン屋めぐりに

ています。発行の回数が増えるといいなと思います!
(東京都世田谷区・39歳男性)
*母校の敬愛学園柔道部が出ていたなつかしかったです。進学や就職で9年間北九州市を離れていたのですが、こんなカッコいい広報誌ができたなんて、と、大変うれしくなりました。
(門司区・28歳女性)
*私の自慢は、「雲のうえ」を1号から20号まで持っていることです。隅から隅まで時間をかけて読みます。引き込まれるような写真が好きです。
(小倉北区・65歳女性)
*初めて読みました。「アズ」の話はとても興味深く、陸奥A子さんも描いていたこともあったと知り、とても驚きました。写真がきれいで読みごたえがありました。無料とはずいぶんいいですね。無料で読める古書店めぐりが興味です。北九州市内の「古書店特集」を期待しています。たところ、「檸檬句会」のことが掲載されていました。古書店訪問に加え、句会にも参加してみようかな。
(八幡東区・49歳男性)

とのつながりや絆があり、みなさんよい表情をされているな、と思います。
(福岡県太宰府市・27歳女性)
*若手県釜石市ラグビーで盛り上がった町。釜石のラグビースポーツ少年団には30年以上取り組む歴史があるのに、少子化で寂しい練習風景です。SRSと釜石の少年たちで交流試合ができるといいなと思います。
(岩手県釜石市・46歳女性)
*空港内でこの本を手に取りました。市民の皆様が生きてくるといベントやスポーツに取り組む様子がかげえ、大変感心いたしました。
(埼玉県朝霞市・63歳男性)
*各々生きているフィールドは異なるけれども、目標を持って取り組む姿に背中を押されました。景観や観光地の紹介も街のPRにはなると思いますが「雲のうえ」のようなごく普通の方々にスポットを当てていくのが効果大きいと思います。年4回は発行してもよいのではないのでしょうか。
(八幡東区・33歳男性)



次号予告 うどん行く?

最新の発行情報は、北九州市にぎわいづくり懇話会ウェブサイト (<http://lets-city.jp/>) でお知らせしていきます。



北九州市税課からのお知らせ
「ふるさと北九州市応援寄附金」の寄附者(1万円以上)には、本誌の最新号から2号分をお届けしています。

*バックナンバー

- 『雲のうえ』14
特集：電中に乗って、
- 『雲のうえ』18
特集：北九州市未登録文化財。
- 『雲のうえ』19
特集：とどけ、歌。
- 『雲のうえ』20
特集：集まれば、仲間!

2014年9月30日現在、上記のバックナンバーがございます。2014年3月より、『雲のうえ』の送付業務を障害者自立支援ショップ「一丁目の元気」と連携して実施することになりました。送付に必要な切手の額を改定させていただきましたので、ご理解のほどよろしくお願ひします。送付希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、冊数分に応じて下記の額の切手を同封してお送りください。送付切手代(封筒その他の必要経費分含む) 1~2冊/300円分、3~4冊/400円分、5~6冊/500円分。送付は1名様1号あたり1冊とさせていただきます。予定数に達した場合は終了させていただきます。市のHPで在庫状況を確認のうえ、お申し込みください。☎802-0002 北九州市小倉北区京町一丁目6-1 ☎093-383-6061 一丁目の元気「雲のうえ」送付係



繋がる 拡がる
楠風の絆。



九州産業大学 同窓会楠風会

創立50周年

主催 九州産業大学 同窓会楠風会

事務局 〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1 TEL.092-681-0009 <http://nanpukai.kyusan-u.ac.jp/>

